

引き続きの検討事項及びパブリックコメント等に基づく報告書（案）の加筆・修正について

検討事項	報告書ページ	案
協議会が適正に運営されない場合の措置について	9	教育委員会は、協議会の運営状況についての的確な把握を行い、必要に応じて指導及び助言を行うとともに、対象学校の運営に支障が生ずるおそれがあると認められる場合には、協議会の運営を確保するための措置を講ずる。措置の想定としては、指導や助言、委員の解任や運営を一時停止して改善に向けた指導を行うなど。
委員の任期について（現行：1年度、再任可）	11	地域コミュニティの担い手不足や固定化とともに、多様性の観点から新しい委員の選定についても議論されてきたことから、協議会の議論の継続性を鑑みて <u>2年を1期として再任可、連続する場合は3期までとする</u> 。年度末までに新年度の委員を校長が推薦して、市教育委員会が任命する。 【他自治体の任期の例】：三鷹市：2年。再任を妨げないが、引き続いて4任期を超えて在任することはできない。／町田市：再任できるが、通算して10年を限度とする。／杉並区：保護者やその他の委員は3任期まで。特別に認める場合は4任期まで。学識者は5任期まで、特別に認める場合は7任期まで。公募委員は3任期まで。
会長・副会長の選出について	11	委員の互選により、校長以外の委員の中で選出する想定。会長は会務を総理し、協議会を代表する。副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を行うものとする。
協議会事務局担当者の設置と役割について	17～18	会計年度任用職員として市教育委員会が任用。教育委員会、協議会、学校と連絡・調整をしながら、委員委嘱手続き・開催通知・資料準備・広報・開催準備・会議録作成などの業務を行う。（P18に運営イメージ図を追加）
ガイドラインについて	16～18	スムーズに協議会が開催され学校や委員の負担を減らせるよう、運営ガイドラインが重要になってくる。例えば、学校（校長）は委員の選定の仕方、学校の役割、家庭や地

		域に役割分担してほしいことの明示、年間通しての学校行事などの報告、子どもたちの学校生活の実態、学校評価の作成など。委員の協議会での役割の適切な把握、学校運営の基本方針承認に向けた十分な議論の必要性など。事務局の役割としては、委員委嘱のための必要な手続き、会議開催の案内作成、資料準備、委員との連絡調整、当日の記録作成、傍聴の対応、広報活動など。
--	--	--

パブリックコメント等の要旨	報告書ページ	案
<ul style="list-style-type: none"> ・地域「人材」という言葉はあまり良い意味に受け取れる表現ではない。 ・「人材」と認識している時点で協働ではない 	5,11,12 13,20,22	地域の「協力者」など、表現を修正する。
<ul style="list-style-type: none"> ・イメージ図は学校が上にあり、校長がトップにある形で違和感がある。学校は地域の中にあるものと思っている。 ・いつも学校が先に書かれていたり、図式化すると学校がいつも上に書かれているような印象を持つ。 ・学校にたくさんの矢印や囲みが描かれているが、こうして学校をがんじがらめにし、忙しくしてしまうのではなく、そっと見守ることが大事ではないかと考える。 	8	<p>イメージ図の学校の位置を「開かれた学校づくり協議会」と横に並ぶように変更し、地域の囲み線をなくすよう修正する。</p> <p>学校にかかる矢印のデザインを変更したり本数を減らし、印象を柔らかくするよう修正する。</p>
公募の基準などの設定は難しいと考えるが、開かれた学校づくり協議会の委員は公募してもよいのではないか。	11	協議会で公募した委員を校長に推薦することも可能となるよう加筆する。

パブリックコメント等の要旨	報告書ページ	案
学校側からも開かれた学校づくり協議会に何を してほしいかを言ってほしい。	12	学校側がどのような活動に家庭や地域の協力が必要なのかを具体的に「明示して」に修正する。
武蔵野市は地域のつながりが出来上がっている ので、学校はそれを上手に利用したら良い。地 域に甘えたらいいと思う。地域は学校を守ろう という意識が強い。	12	そういった意見が届いていることを加筆する。
教員の負担軽減のために協働をもってくるので はなく、仕事の整理と労働力の増強で対処する べき。家庭や地域との役割分担に時間がかかり、 学校の負担が増える可能性が高いのではない か。	15	「学校・家庭・地域の共通理解で学校の業務の見直しを行うことで必要な教育活動に注力できる」ようになることを前段にし、「結果として教員の多忙化解消の一助にもつながるものである」という表現に修正する。
傍聴の仕組みがない、会議録が公表されないな ど改善すべき点がある。	17	開かれた学校づくり協議会がどんな活動をしているのか関心を持った方が広く参加できるように、「傍聴や会議録の公開など積極的な情報発信を行う」ことを加筆する。
開かれた学校づくり協議会の委員になっても何 をするといった役割の説明をちゃんと受けてい ない。どんな役割があるのかガイドラインが大 切になってくる。 校長によって開かれた学校づくり協議会の持ち 方が色々。学校の役割や留意事項についてもガ イドラインに明記すべき。	16～18	「学校に向けて」や「委員に向けて」などそれぞれの役割ごとに運営に必要な事項についてガイドラインに記載することを加筆する。
・新しい開かれた学校づくり協議会が軌道に乗 ると、校長、副校長はじめ教員は子どもの学び に没頭することができ、学校のモチベーション	19	「教育活動の質の向上につながったとき、それを体感できることが開かれた学校づくり協議会にとっては成果となり、また、学校も士気が高まる」ことを加筆する。

<p>が上がっていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル校以外でも、学校が困っていることの解決が開かれた学校づくり協議会でできたらいい。それを体感することが成果物となる。 		
<p>学校の活動はコロナの影響を非常に強く受けている。PTA における業務継続や学校と地域の人間関係など今までつながっていたところが切れてしまっている。このような状況になったとしてもいかにつなげていけるかを新しい体制の中で考えなければならない。</p>	19	<p>「コロナウイルス感染症の影響により、学校の教育活動、PTA や地域の活動も継続が難しくなったり、これまでのつながりが途切れてしまったり、関係性を築きにくくなる状況が続いている。このような状況下でもいかにつながっていけるかを新しい体制でも考えていかなければいけない」ことを加筆する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・負担なく関係を続けていくために、「ゆるく」繋がっていく。 ・協力者に関してはゆる〜く各学校に趣味や特技、資格などを保護者が登録できるようにすると良いのではないか 	19	<p>「ポイントは、学校・家庭・地域の一部の努力や負担によらず、「緩やかな」つながりを続けていけること」を加筆する。</p>
<p>開かれた学校として自然と参加できるような入口（仕組み）を作る。インターネットや SNS を活用するなど、工夫した広報をする</p>	19	<p>「「社会に開かれた学校の入口が広く設けられ」、「ICT ツールの活用や、学校の常識にとらわれない家庭や地域からの新しい発想を活動に生かす柔軟性なども必要になってくる」ことを加筆する。</p>
<p>学校・家庭・地域、互いの知らないところを理解する。そのために、価値観を多様化する必要がある。</p>	19	<p>「学校・家庭・地域の協働体制の効果が新しい価値や多様性を生み出し、子どもの学びや育ちにつながっていく」ことを加筆する。</p>